

## 申5号 2020年度年末手当等に関する申し入れ団体交渉実施！その1

11月12日、申5号で要求した趣旨について  
会社に説明し満額回答を要しました！

### 組合



私たちの努力に  
報いる回答を  
強く求める！

会社発足から8年目に入り、新規受託駅を確実に拡大し、第2四半期決算は増収増益、営業収入は対前年比111.2%を達成。これは社員一人ひとりが最終年度にあたる「JESS ビジョン2020」に掲げる「経営基盤を固める取り組み」を着実に進め、私たちの日々の奮闘、業務品質の向上に真摯に取り組んできた結果である。未だ収束しないコロナ禍においても、不特定多数のお客さまと接する駅で、感染リスクがある中で命がけで対応しており、社会インフラを守るという使命感のもと努力してきたことに報いるべきだ。

職場では、要員不足により年休消化ができるのかという不安や、駅遠隔操作システムの拡大に対する不安がある中、話せる指定席券売機コールセンター対応等の新たな業務も増加し、労働の質を向上させてきている。

新規採用者数増加により人件費などの営業費用の増加は、今後も優秀な人材を確保するのに必要な経費であり、魅力ある会社であるために必要不可欠なものである。

コロナ禍で家族の休業等により世帯収入が減り、ローン返済もあり、年末手当を必要としている組合員もいる。

これまでの努力と頑張りを受け止め、さらなるモチベーション向上のために、納得感ある正当な支給を強く要求する！

### 会社

新型コロナウイルス感染症拡大の最中においても、不特定多数のお客さまと接し、不安のあるなか、誠心誠意業務をしていただいていることに感謝を申し上げる。

中間決算は増収増益である。営業収益は受託箇所拡大により対前年比111.2%。営業費用の90%以上を人件費が占め、社員数の増加が費用増につながっている。通期においても増収増益を予想している。

グループ全体の連結決算は極めて深刻である。ご利用回復の兆しが見えるがコロナ以前に戻ることはない。21年度の黒字は必達である。会社と社員間の危機感を共有していくことが重要。

当社の決算とグループの決算が大きく分かれることになった。これまでにない状況である。JR東日本の重要子会社であるということと、独立した会社として、社員の労に報いることも重要である。様々な側面から見極めた上で決定していく。

**新型コロナウイルスが収束しない中で命をかけて業務に向き合っている！  
組合員の現実に対して会社は満額回答で報いるべき！！**